

# 入間市西洋館



- 文化財名 旧石川組製糸西洋館（本館・別館）〔国登録有形文化財〕
- 所在地 入間市河原町13番13号
- 建築年月日 大正10年7月7日（上棟）・大正11年～12年（竣工）
- 設計・建築 むろおかそうしち 室岡惣七（設計）・せきねへいぞう 関根平蔵（建築）
- 建築・構造 本館 木造2階建 けしょうれんがぼり 外壁化粧煉瓦貼 ようかわらびき 洋瓦葺  
別館 木造平屋建 せきねへいぞう 外壁化粧煉瓦貼 さん 棧瓦葺
- 延床面積 本館 1階 281.72㎡  
2階 287.86㎡  
地下 76.03㎡  
別館 1階 148.76㎡
- 管理者 入間市教育委員会 生涯学習課 生涯学習文化財担当  
Tel 04-2964-1111（内線 4123・4124・4127）

## 石川組製糸と西洋館

石川組製糸は、黒須出身の実業家・石川幾太郎が明治26年(1893)に起こした製糸会社です。創業当初は手工業でしたが、すぐに蒸気力を利用した機械を導入し、好景気にも支えられて、瞬間に経営を拡大しました。昭和の始めには県内外を合わせると9つの工場を持つ、全国有数の会社に成長しています。

石川組製糸では、石川一族がキリスト教の信者であったことから、経営方針だけでなく従業員の教育にもその影響を見ることができます。例えば工女のために家庭夜学校や日曜学校を開設しています。また、旧豊岡小学校の雨天体操場や日本キリスト教団武蔵豊岡教会の教会堂の建設に当っても建設費等を寄付するなど、地域の文化の振興にも貢献していました。

石川組製糸は、主に外国と取引をしていたため、商談で外国人商人を招く機会がありました。このため幾太郎は、外国人が来訪した時の迎賓館として西洋館を建設することにしました。

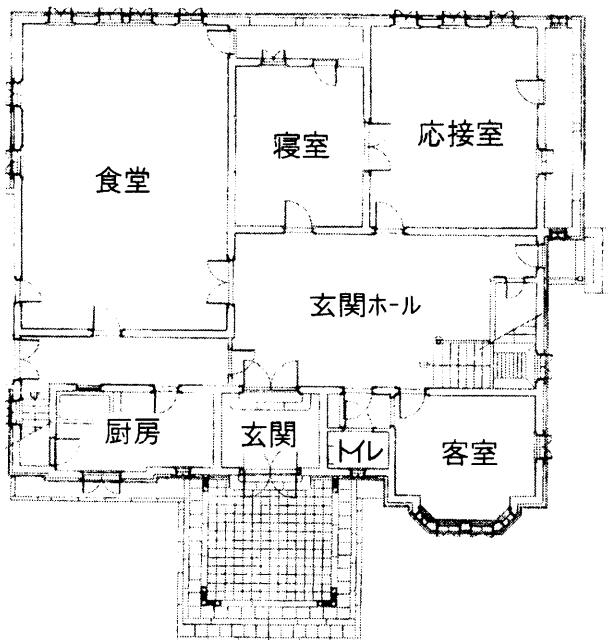
西洋館は、設計を東京帝国大学(現在の東京大学)で西洋建築を学んだ室岡惣七が、建築を川越まつりの山車を製作したことのある宮大工の関根平蔵が、それぞれ担当しています。

建物の構造は、本館・別館とも木造で、外観を化粧煉瓦(タイル)貼けしょうれんが ばりで統一しています。その一方で屋根は本館が複合ヒップゲブルはんまりつまづくり(半切妻造)で洋瓦葺、別館は寄棟造の棧瓦葺よせむねづくりとして変化をつけています。

建築学的には、外観より内部が優れていると言われています。戦後に進駐軍に接收された際に大きく改造を受けていますが、全体的に当時の様子を今に残しています。館内の特徴としては、天井や床周りの寄木、照明器具が部屋ごとに違った意匠を持つことにあります。また、玄関ホールの大石製暖炉、一木で造られた階段の手すり、絹を使った壁紙などは製糸業で蓄財した富の大きさを物語っています。

石川組製糸は、関東大震災や昭和恐慌の影響等により経営不振に陥って、昭和12年に解散しました。

見取り図【本館1階】



【本館2階】

